

川に学ぼう!

# せせらぎゼミナール

東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境課程

## ●金目川の汚れは?

### 金目川水系の水質(下流編)

今回は伊勢原市、平塚市をまたがる金目川水系下流部の状況を報告します。板戸川、渋田川は以前とても汚れていましたが、近年の伊勢原市による下水道設置によって汚染源である生活排水の流入が無くなり、現在は改善される傾向にあります。それでも、鈴川に合流する直前の板戸川のBOD<sup>※</sup>年平均値は2.9ppm、渋田川は3.5ppmとなっています。大根川は周辺住宅の下水道設置が十分ではないため、生活排水が流入し、非常に汚濁が進んでいます(鈴川に合流する直前のBOD年平均値は8.7ppm)。また、河内川は金目川に合流する川の中で、最も汚れた川の一つです。BOD年平均値は11.1ppmにもなります。今後、これらの河川の水質改善が課題であると思われま。

※BODは生物化学的酸素要求量のこと。コイ、フナなどが普通に生息できる限界が5ppm程度といわれています。

(藤野研究室：門多、久保、高井、福山、堀井)

### ケナフによる富栄養化対策

今日、金目川水系では窒素やリンによる富栄養化という問題が深刻になってきています。植物には成長する際に窒素やリンを吸収する働きがあり、中でも1年草であり代替バルブとして注目されているケナフを水耕栽培させることで窒素やリンを除去できれば、水環境の改善と地球温暖化対策の一石二鳥が狙えると考えています。

実際に秦野浄水管理センターの敷地内に水路を作成し、富栄養化の原因物質である窒素やリンを含む下水2次処理水が流入部から流れ込み、水耕栽培させたケナフを通り、流出部にしみ出てくるようにしました。流入部と流出部の窒素とリンの濃度を測定したところ、窒素は8割、リンは4割除去されていることが分かりました。

(井上研究室：徳武、小林)

作ろう!

### 菜の花を探そう

春の金目川流域を歩くと、川の土手や中州に「菜の花」が目立つ場所が数多くあります。この菜の花は、油をとるために畑に栽培されていたアブラナとはちょっと違うもので、ほとんどはセイヨウカラシナという種類です。セイヨウカラシナは、ヨーロッパ原産で、近年分布を著しく広げている帰化植物の一つです。

今年の春には、金目川流域の川沿いで、どこに菜の花が群生しているかのマップを作りたいと計画しました。セイヨウカラシナが一面に咲いているのは、見た目はきれいですが、在来の植物を圧迫しているという意味では、問題の多い風景でもあります。地図に示してみると、川の汚れとの関係が浮かび上がってくるかもしれません。

お近くの川で、菜の花を見たら、「○○川の○○橋の上流側で菜の花が一面に咲いていた」というように、下記の「ネットワークの窓口」まで報告を寄せてください。地図に場所を示して頂ければ、なお好都合です。菜の花の咲き方については、「一面に咲いている」「点々と咲いている」の二段階で表現してください。

## 流域の自然マップ

平塚市博物館 浜口哲一

また「菜の花がなかった」というのも大切な情報になります。



★前回呼びかけた白サギのねぐらについて、何人かの方から情報を頂きました。結論的には、平塚大橋の下の中州にあるねぐらが金目川流域では唯一の大きなねぐらと考えてよいようです。それだけ、あの場所の重要性が高いということでしょう。ねぐらのようすについては、観察会の記事を読んでください。

ねぐらに集まって来る飛来ルートについては、ほとんど情報がありませんでしたが、岡崎や南原、片岡などで鈴川、金目川にそって下流に向かう動きが見られていますので、流域の川や水田に分散している個体が集まってきていることに間違いはないでしょう。これからも情報収集を続け、地図にできそうな段階で紹介したいと思います。

知ってる? 知りたい! 流域のこと その二

### 金目川水系の基礎知識

Q 金目川と花水川は違うの?

A 同じ川です。金目川は、平塚大橋あたりから下流では花水川(ハナミズガワ)と呼ばれています。

昔は桜の花が水面いっぱいに映る、美しく風情のある川でした。川の名の由来は、源頼朝が花見に来たとき、花は前夜の嵐で散ってしまったあとでした。桜の花を見損なって「花見ず」の川と言ったことが始まりとの言い伝えがあります。真偽の程は別にしても、鎌倉時代初期には花の名所として有名だったことがわかります。

文明18年(1486年)京都聖護院の名僧道興(どうよ)は「咲くとみえ 散るとみゆるや 風わたる 花水川の 浪のしらたま」と詠んでいます。



●「川の流れるように」というには疲れた感じの下流でした。でも、あれだけ多くの鳥たちや人間がたよりに流れます。腰を落ち着けている!(佐々木)

●できあがってしまえばわずか4ページ。でも、そこまでの道のりは長かった。これもまた楽しいや。(二見)

●自分が生まれ育った地域を流れる川でも、場所が変わるとずいぶん様子が違うことが実感できます。(横溝)

●川のそばでは時間もゆっくりたちや人間がたよりに流れます。腰を落ち着けている!(佐々木)

●川のそばでは時間もゆっくりたちや人間がたよりに流れます。腰を落ち着けている!(佐々木)

### 編集後記

●川の中州の鳥のねぐらの観察をし、その延長では長かった。これもまた楽しいや。(二見)

●自分が生まれ育った地域を流れる川でも、場所が変わるとずいぶん様子が違うことが実感できます。(横溝)

# 金目川水系 せせらぎ通信

Vol.2

編集：金目川水系流域ネットワーク世話人会 発行：神奈川県湘南地区行政センター 発行日：2002年3月25日



歩いてびっくり!  
見てびっくり!  
いろんな発見があったよ!



寒い時期だからこそ、すてきな景色に出会えました。

金目川下流へ  
行ってみました!  
マップを持って

### <ネットワークの窓口>

神奈川県湘南地区行政センター企画調整課  
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-1  
TEL.0463-22-2711 内線212-214 FAX.0463-23-0599  
E-mail shonanac.0024.kikaku@pref.kanagawa.jp

### ★情報誌の編集スタッフ募集

金目川水系流域ネットワーク世話人会では、一緒にこの通信を作ってくださるスタッフの方を募集しています。興味のある方、やってみたいと思われる方は、左記の「ネットワークの窓口」までご連絡ください。

r100

環境省認定100%再生紙を使用した紙です

# 金目川リポート



さる12月15日、ネットワークのメンバーを中心とした有志が、平塚大橋左岸でサギのねぐら観察を行っている「こまたん」の皆さんを訪ねました。

H13.03発行 | 金目川水系流域マップより抜粋



ムクドリが帰ってきた

ムクドリやサギ類のねぐら入りが見られるということで、参加してみました。花水川の中洲に、数千羽のムクドリやサギの仲間が次々と入っていく様子は壮観でした。観察している私たちの上を、コリカモメなどが次々と通過していききました。

## サギとムクドリのねぐら



寒空にウッスラと夕焼けの残る中、何百羽というムクドリの群れが黒いシルエツトとなって勢いよく次々に舞い降りる姿は圧巻！また、ジクジクと軋しく鳴き合うムクドリの群れを「動」とするなら、大きな羽根を広げて三々五々ツツワリと川辺に降り立つサギ達は「静」。両者のコントラストは絶妙でした。

実際に歩いて自分だけの地図を作ろう！

実際に歩いて自分だけの地図を作ろう！



大切な環境です。近づきすぎると鳥たちの体臭の知覚になりますので、注意して観察しましょう。

マップを使ってみて...

- 鳥の名前がわかるといいな
- 探鳥地エリアの斜線が邪魔
- 岸辺を歩くことができる
- いろいろな情報があつたらいい
- 現地に説明板があるとわかりやすい



五感を通して得た知識に勝るものなしということで、実体験授業への取組が進んでいるようです。今日のような観察会は、心ゆくかな子供たちを育ててくれることと思います。

## 「ねぐら」についての質問コーナー

### ●「ねぐら」ってなに？

○時(ねぐら)とは鳥が寝る場所のことです。鳥は「寝る」といっても、人間のような睡眠をとるというより、「休息」というのが当たっている場合も多いようです。「寝たり休んだりする場所」としておきます。

### ●どうやって「ねぐら」の場所を選ぶの？

○①外敵からの安全性、②強い風、寒い風を防ぐといった二つの観点から選ばれているようです。①を優先して、多少風が当たっても、夜行性の肉食獣が立ち入ることのできない水面で隔離された中洲や海面が選ばれている場合もあるし、本来地上性のキジ科の鳥でも夜間は樹上で休むというケースもあります。

### ●一か所に集まって寝るのはなぜ？

○集団ねぐらをとることで知られている鳥は、ウミウ、ユリカモメ、コサギ、トビ、ツバメ、ハクセキレイ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなどです。やはり昼間も集団行動をとる鳥たちが夜も集団ねぐらをとる傾向があるようです。

### ●「ねぐら」のメリットは？

○①たくさんの鳥が集まることで、熱エネルギーの消費を少なくしている、②捕食者の接近に早く気がつき、仮に一羽がやられても残りは逃げおおせる、③餌についての情報センターの役割を果たしているなどがあります。しかしまだわかっていないことが多いようです。



## DATA①

観察日/12月15日(土) 15:30~17:00  
観察地/平塚大橋下流、左岸  
天候/晴天  
参加人数/約30名  
日の入り/16:30



## DATA② いろんなサギがいた



## DATA③ こんなものも見つけたよ！



## 足を延ばして河口へ

鳥のねぐら観察会は上流と河口の交歓の機会にもなりました。下記は秦野の有志が、12月24日に平塚の方と河口付近を歩いた後の一言と、日頃から河口を見ておられる平塚漁協の方からの伝言です。

■今回、平塚市内の数カ所を案内していただいて、下流の姿を確認できたのですが、水溜まりにペットボトルや空缶の多いのにびっくり。上流から下流までゴミのない川にしていきたい。そのためにネットワークが役立てば良いと思いました。(浅見一義、秦野市在住)

■「海は山とつながっている」ということを見せたくて、秦野の方々の浜の漂着物拾いに誘いました。例えば漂着物のなかにはクルマが多いのですが、その形は様々で完全な形のクルマや、アカネズミが両側をかじった跡が残るクルマ、リスによって二つに割られた跡が残るクルマ、自然に発芽して何の跡もないクルマなど、上流部の環境を知ることができます。海辺で、山の生き物の暮らしがわかるなんておもしろいと思いませんか。(小林悦子、平塚市在住)

■花水川橋から河口までの金目川はしらすウナギの漁場であり、貴重な天然の川水なので、ゴミのない健全な水が増えることを願っています。水量は40年前頃に比べると、1/10といえるくらいに減っています。現在、平塚市と提携して小中学生を船に寄せ、ゴミを拾う催しを行っています。川上の子供達にもぜひ体験してほしいと思っています。プラスチックゴミを餌と間違える動物のことも、海のレジャーと漁協の関係など、皆さんに聞いてほしいことがいっぱいあります。(平塚市漁協専務理事 渡辺 孝)



## 貴重な環境を残して

文：こまたん



花水川平塚大橋の下流の中洲には竹藪がありますが、ここがムクドリやサギたちの「ねぐら」になっています。

平塚市山下の山田文則さんはこのねぐらを調べていますが、2000羽を超えるムクドリや200羽ほどのサギの仲間(アオサギ・ダイサギ・コサギ・ゴイサギなど)やキジバトなどが利用しているそうです。

中洲のねぐらを見下ろす位置にあるケヤキの大木や電線にたくさんムクドリたちが鈴なりになって止まり、中洲の横の川に待機していたサギたちが続々と舞い上がってねぐらに入っていきます。

こうした川の中洲の竹藪は貴重な環境です。こうしたねぐらが、その価値を知らない人の手で伐採されたりしますと、寝場所に困った鳥たちが住宅地の真ん中の林に集まってきて騒音や糞や臭気の発生によって人とのトラブルを起こすことになるケースが、よくマスコミでも報道されています。

平塚のねぐらのそばの中洲で不法耕作が始まっており、サギやムクドリたちの安眠を妨げるほどに畑が接近してきています。早くやめてもらい、貴重な集団ねぐらの場所を確保する必要があります。



## 「こまたん」ってなに？

「こまたん」は①探鳥会の名前でもあり、探鳥会を中心にいろいろな活動をしている②グループの名前でもあります。バードウォッチングを通じて自然環境を見てもらう、現場に来てもらうことを目的として、「初めて参加された方を一番大切に」という合い言葉で続けています。「高麗山・花水川探鳥会」の呼び名が長すぎたためか、いつの間にか「こまたん」の略称が定着しました。

### ●「こまたん」の会員になるにはどうしたらいいですか？

実は「こまたん」には会則もないし、会費も不要なのです。グループ「こまたん」のメンバーが主宰する、第二日曜日に行われる「日本野鳥の会神奈川支部の探鳥会」も、不定期に行われる「市民探鳥会」も、「ガールスカウト探鳥会」もみんな「こまたん」なのです。

ですから、こうした催しに参加したあなたはもう「こまたん」の会員なのです。

### 「こまたん」の催しいろいろ

- 毎月最終日曜日 「こまたん」  
問い合わせ先 田端裕 0463-61-5966
- 毎月第二日曜日 日本野鳥の会神奈川支部定例探鳥会  
問い合わせ先 斎藤常実 0467-51-8263
- 年間4~5回 市民探鳥会  
問い合わせ先 岩佐昌夫 0463-55-6142
- 不定期 幼稚園・ガールスカウト探鳥会、その他

### ●「こまたん」のホームページ

<http://www.2u.biglobe.ne.jp/komatan/index.html>

マップはここに  
あります

平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町の広報窓口  
県政情報センター 各地区県政情報コーナー ほか  
※詳しくは、裏面<ネットワーク窓口>にお問い合わせください。